

週日の説教

金 大烈 神父 2009年7月2日(木)

《赦されるとは、癒されること》

今日の第一朗読(創世記 22・1 19)は、結構面白い話です。その中で、ただ一つだけ私たちが覚えておくべきことは、「神様は、絶対私たちに嫌なこと、悪いこと、損になることはさせない。」ということです。

神様が、アブラハムに「お前の一人子を生贄として捧げるように」と命じる物語だったのですが、これはもう全く別の意味です。私は、司祭の良心にかけてはっきり申しあげます。神様は、絶対に、皆様に悪くなるようなことをさせません。だからこの第一朗読のメッセージは、「何をさせられても、それは私のために神様が準備して下さった道であることを信じなさい。」ということです。神様に完全に委ねる心が信仰です。「どれほど頑張ってもあなたのみ旨を量ることはできません。だから、あなたがさせることに私はついていきます。」という心が、この創世記で話されている大きいメッセージではないでしょうか。

福音(マタイ 9・1 8)に入ってみます。中風で寝たきりの人を、友達がイエス様のところへ連れて行きます。イエス様はその人を見て、「あなたの罪は赦された。」と言われます。それを聞いた律法学者達(神様について毎日ものすごく勉強をしている人達)は、「赦される」という言葉をイエス様が自分から口にするにすごく不快感を示します。

では、どうしたらよいのでしょうか。今日の福音を読み、黙想をして思ったのは「'赦す'とはどういうことか。'赦される'とはどういう意味か。」ということです。

結局、「赦される」とは、「癒される」ことではないか、と結論が出ました。肉体は、年をとったり、いろいろな病気によってだんだん古くなります。しかし、心というものは、私たちが努力さえすれば、いつもイエス様・神様のみ旨に従おうという気持ちになれば私は信じたいです。そういう意味で、実際の肉体的な病は、別の意味があると思って受け入れればよいと思います。しかし、それとは別に、心が傷んでいる心の病があります。心の病は、結局、心が不便になっているから痛いのです。では、その不便さはどこから来るのでしょうか。いろいろな場合がありますが、罪の意識や、なぜ私はこういうことをしてしまったのか、あの人はなぜ私をこのように傷つけるのか、という人とのかかわりの中の複雑な感情によって心が痛むのだと思います。

ですから、「神様から赦される」というのは、自分が気にしているそういう不便な心を癒されることではないでしょうか。

「私は、きれいに神様のみ旨に従って、いい子になりたいと思いますが、自分の弱さによってまた罪を犯してしまいました。どうすればよいのでしょうか。」もし、罪によって生じるそのような意識が心の中にあれば、私たち達は絶対平安な心を得られません。そういう意味で、「赦される」ことは、「癒される」ことではないかと思います。

結局、私たちが赦しを求める時、心の癒しを求めているのではないのでしょうか。もし私たちが、良心について、こういう面では自信がある、という気持ちになれば、私たちはたぶん平安な心を保つことができるのではないかと思います。しかし、私たちは死ぬときまでいろいろな間違いを起こしてしまいます。その都度、癒しを求める、それが一つの信仰の歩みではないかと思ってみました。

ありがとうございました。